

乳がん闘病体験からギフトボックスとケア用品を開発 女性の逆境やコンプレックスをときめきに変えたい

「ソーシャルビジネスグランプリ

2016」でグランプリを獲得した塩崎良子さんは、5月に会社を設立した。社名は株式会社TOKIMEKU JAPAN。がん患者がときめくケア用品やファッションのブランドを立ち上げ、これらの商品とともに、がん患者がもたらううれしいプレゼントをネット販売するギフトボックスを運営する会社だ。

■苦しいがん治療の中で見つけたもの

塩崎さん自身が若年性乳がんになったのは33歳。26歳で起業し、セレクトショップやドレスレンタル事業を好調に展開して来た矢先だった。突然に世界が白黒になった。すぐには受け入れられず、自分だけが異次元にいるような感覚。

さらにつらい抗がん剤治療が続く中、いっしょに一喜一憂してくれる家族や友人の存在があった。つらいのは自分だけじゃない、励まし支えてくれる周りの人たちのために頑張ろうという思いが前を向く力になった。

■がん患者によるファッションショー

治療も終わりに近づいたころ、主治医から提案され、塩崎さんが中心になり企画したがん患者によるがん患者のためのファッションショーは、2015年7月、乳がん学会のイベントの一つとして開催された。多くの女性ががん患者や元患者がモデルや裏方として参加し、自信を取り戻せたと言ってくれた。

女性のがんになると、髪の毛が抜け落ちたり乳房を切除せざるを得なかった

り、女性としての自身や尊厳を喪失してしま

し、ファッションや美容などにも無関心になりがちだ。そこから元氣を取り戻す後押しをしたい、ときめく気持ちを取り戻すきっかけとしてほしい。その思いと自らの体感をもとに、ケア帽子やアンダーウイグ、下着、洋服などを開発中だ。高品質の製品を提供するため、信頼できるアパレル企業と提携している。

ギフトボックスは9月公開予定。自分が闘病中、オーガニック化粧品やクスリ

を入れるポーチをもらって、一人じゃないよと勇気づけられうれしかった。贈る人の想いを商品といっしょに届けたい。そんなギフトボックスになる予定だ。

将来的にはプロジェクトの雇用によっても、がん患者のバックアップをしたいと考える。

■社会と会社がいっしょに成長を

社会起業大学では、多くの社会貢献を考える人がいて励みになった。しかし7年の経営経験を持つ塩崎さんは、思いだけでは事業にはならない難しさも同時に見た。ビジネスのプロとして成長することがまずは大切と感じている。

グランプリ獲得によって、審査員でもあった投資関係者が具体化に向けてサポートしてくれた。数字を見直し、気軽に利用してもらえてきちんと利益も出る価格設定をめざしている。

「誰でも、年齢も含め不安や逆境は必ずあるでしょう。たとえそれが命に関わることだったとしても、いま自分が情熱を向けられるものがあれば、輝いて今を見ていられませう。そのきっかけや後押しになるよう、設立した会社が社会とともに成長していけたらと願ってます」

シリーズ

社会起業家

株式会社TOKIMEKU JAPAN代表取締役



入院中、哲学や宗教などの本をたくさん読んだ。その中に、自分の最大の強みになると予感させる言葉があった。あのスティーブ・ジョブズも座右の銘とした「明日死ぬとじて今日を生きなさい」という、マハトマ・ガンジーの言葉。その続きは「永遠に生きるつもりで今日学びなさい」

■連絡先
Mail: ryokobaby777@gmail.com

塩崎良子氏に聴く